

山形・大浦遺跡

おおうら

- 1 所在地 山形県米沢市中田町字大浦
- 2 調査期間 一九八四年(昭59)六月
- 3 発掘機関 米沢市教育委員会
- 4 調査担当者 菊地政信
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代、奈良時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(米 沢)

大浦遺跡は、米沢市街地の東北へ約1kmの河岸段丘に位置し、標高は約二三七mあり、宅地と水田、畑に利用されている。一九八〇年に当遺跡に隣接する笹原遺跡が調査された。

今回の発掘は、本遺跡の東側最端部が駐車場造成地となることから、米沢市教育委員会が事前発掘調査を実施した。今回の調査面積は約二六〇㎡であり、本遺跡の性格についての全容は

明確ではない。なお本遺跡の総面積は二、四〇〇㎡と推定される。調査の結果、奈良時代の遺構を中心に、柱穴・溝状遺構が検出された。溝状遺構は重複して確認され、木簡は、そのうち切られた溝状遺構より出土した。

8 木簡の积文・内容

長さ一一・六cm、幅三cm、厚さ五mmであり、両端部にV字型の切り込みを有す。墨痕が認められるが、判読はできなかった。なお削り調整は片面だけである。

(菊地政信)

『茨城県関係古代金石文資料集成』刊行さる

茨城県立歴史館が昭和五十六年度から三カ年度にわたり実施してきた学術調査「茨城県関係古代金石文資料の調査集成」の成果がこのほどまとまり報告書として刊行された。茨城県内出土の土器・瓦等に施された墨書・篋書き・刻印を可能な限り集めたもので、集めた資料の個別表と写真図版、出土遺跡の概要からなり、志田諄一氏の論稿「常陸国における古代の郡名位置比定」も収録されている。

茨城県立歴史館発行

『学術調査報告書Ⅱ』

茨城県関係古代金石文資料集成―墨書・篋書き―

(B五版 本文九〇頁 図版九〇枚 一九八五年三月刊 非売品)